

わおん 通信

2018
秋号
vol.30

特集

【わかやまこどもエコチャレンジ】と 【おもしろ環境まつり】の素敵な関係性



CONTENTS

P2 - P3

県内地域の取組

海の生き物を見よう
環境祭 2018で今年も啓発
未来へ向けたエネルギーのあり方を考えるために
見える!つくれる!おうちのエネルギー教室
夏休みに学ぶ防災と防止

推進員 克ちゃんの
ああしたら こうなった 5 (全6回)

P4 - P5

【わかやまこどもエコチャレンジ】と
【おもしろ環境まつり】の素敵な関係性

P6 県情報

気候変動・適応

P7

推進員さん訪問記²⁵
なるほど ザ・ワード

P8

INFORMATION

海の生き物を見よう

2018年6月15日
和歌浦小学校、和歌浦干潟

[海辺の教室]



今年で3年目を迎える豊かな自然あふれる地域の「宝」を知ることが目的とした観察会に参加しました。講師は「NPO法人人と自然とまちづくり」との理事、任意団体「海辺の教室」代表の平井研さん。まずは教室で、地元和歌浦の干潟についてクイズと実験で学びました。海水と淡水が入り交じる汽水に関する実験で



は、子供たちが積極的に参加し大盛り上がり。準備を整えて干潟へ向かう道中、玉津嶋神社へ立ち寄り、自然への感謝の念をお祈りしました。干潟に着くと観察で気を付ける点を確認し、それぞれ生き物を探しました。「カニおつた!!」とすぐに見つけられる子、「ここにいるかな?」とスコップで砂を掘ってもなかなか見つけれない子「ここに貝がいるよ」とみんなに教えてあげる子、お互いに声を掛け合って生き物探しを進めていきます。「自分で好きな名前をつけてみよう」ということで、生き物をじっくり観察していました。最後に凶鑑を見ながら名前を確認。普段から見慣れている自然に目を向けて、体験できた一日でした。

(県センター 大滝 真緒)

環境祭2018で今年も啓発

2018年6月17日
NPO法人粉河まちづくり塾
古民家「山崎邸」

[エコネットきのかわ]

エコネットきのかわは、今年も「環境祭2018」に出展しました。6月の環境月間に合わせて毎年開催されているこのイベントも、JR粉河駅前にある古民家「山崎邸」での開催は3回目となりました。出展は、近畿大学生物理工学部をはじめ、粉河郵便局、複数のリサイクル事業所など、環境に関連する団体が集結。また大広間では、県センター白井事務局長による講演「お財布にやさしい家電術」や、高校生バンドによる演奏、地元粉河出身のミュージシャンTONPEEさんや数下将人さんのミニライブなど盛り沢山。エコネットきのかわは、気候変動に関するパネル展示と環境クイズを実施。この日参加した100名の回答者には、地元の農家さんが育てた珍しい黒米を配布するなど、さまざまな視点で環境を感じてもらえる一日となりました。

(推進員 樫村 健)

未来へ向けたエネルギーのあり方を考えるために

2018年6月23日、24日
福井県大飯原子力発電所ほか

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]

今回、原子力発電所見学会が紀の川市地球温暖化対策協議会、県センター協力のもと開催されました。2011年3月11日の東日本大震災による発電所の事故を境に、現状についての関心と議論を重ねていこうという要望からの実施となりました。参加者19名を乗せたバスは福井県に入り、原子力研修センターでの基礎講習のあと、稼働中の大飯原子力発電所の見学へ。構内を専用のバスで巡回しながら、専用の映像装置を装着して内部構造をバーチャル見学ができるようになっていって、なかなか迫力がありません。説明を



見える!つくれる! あうちのエネルギー教室

2018年8月4日
白浜エネルギーランド株式会社

[県センター]

真夏の日差しが照り付ける中、夏休みイベント『おやこでわくわくクショップ』に出展しました。南紀白浜にあるテーマパーク主催の企画で、エネルギーやエコなどをキーワードに、地元企業や団

受け、人間の技術の粋を集めた並々ではない構造と施設であることが実感できました。翌日は、原子力PR館や子供たちを対象とした体験館などの施設を見学。いずれも多くの参加者があり、思いのほか活気のある様子でした。道中、参加者間でのさまざまな意見があり、廃炉のための技術の確立やそれらの輸出、核廃棄物の隔離、有効利用など、未来へ向けた国民的課題をそれぞれが自分事として共有できたことに大きな意義があったと思います。

(推進員 佐藤 俊)



体のコンテンツとコラボレーションする初めての試みです。県センターからは「見える！作れる！おうちのエネルギー教室」と題して、暮らしの中のエネルギーの理解と地球温暖化との関係について学べる内容展示。ペットボトルの中で雲を作ってみる、手回し発電機を使った電気の不思議な仕組み体験、家庭の大食らい電化製品を当てるクイズや、これからの天気は？地球はどうなっていくの？といったお話などを用意。人気アトラクションを終えた家族連れが立ち寄れる場所もありまして、約80名が参加。はじめは、なんとなく見てみようという方々も次第に実験に夢中になっていきました。また、屋外では「太陽の光を使ったクッキング」と題して、ソーラークッカーを使った、ポッ

夏休み、親子で学ぶ 防災と防止

2018年8月5日
有田川町 旧田殿保育所
さわれる防災

【県センター、エコネット紀中】

プコーン作りを実演をしました。初めて見るソーラークッカーに興味津々の子供たち。思わず近づきすぎて日陰になり、ポップコーンがなかなかできないといったハプニングもありましたが、参加者らは火も電気も使わずに弾けていくその様子に目を輝かせていました。

地球温暖化防止活動推進員養成講座の一環として、【さわれる防災】というイベントが開催されました。エコネット紀中のメンバーを中心に、有田川町、県センターが互いに連携して実現。参加人数は20人。家族ぐるみの参加者も含め、様々な世代が集まりました。スタートは防災士の方々による、防災クイズや、防災グッズの説明から。新聞紙を使った簡易トイレやお皿作り、キャンプ用のテントを子供達



同士で建てるなど盛りだくさん。また、気候変動の話や、昭和28年7月18日に起こった有田川大水害の話も。これまでにいくつもの被災地に行き、災害支援活動をしてきた人たちの貴重な体験談もありました。そして昼食は、有田川町が備蓄する災害用のアルファ米を自分で作って食べるなど、普段なかなか体験できない機会となりました。今や日本中どこでも災害が起こりうる状況です。自分の身は自分で守るといふスキルは誰しもが持つておくことで活かされます。今後もこういうイベントが、様々な地域で定期的に行われるようになれば良いと思います。

推進員
克ちゃん

ああしたらこうなった

6回シリーズ

エコハウスにしたらかミさんがやってきた！

<「太陽」と「木」の力で365日のお湯>

(前号コラム)のシステムを簡単に説明しますと、まず太陽熱集熱器は太陽熱をベースエネルギーとして蓄熱タンクに貯めていきます。太陽が照っているときは常時集熱できます。蓄熱タンクに集められた熱は台所や風呂への給湯、床暖房に使用します。もし、蓄熱タンクの熱が不足した場合は、ペレットボイラーが動き出して熱を供給するというものです。

自動で着火や燃料供給ができるペレットボイラーだ

から、時々燃料補充と灰の掃除以外は手間いらずで、蛇口をひねるだけで太陽と木質エネルギーでできたお湯が一年中でてくるというものです。

(次号に続く)

このコーナーでは推進員の方々のCO₂削減活動を募集しています。ぜひ、「私はこんな活動をしました」という声をお寄せください。

特集

【わかやまこどもエコチャレンジ】と【おもしろ環境まつり】の素敵な関係性

これまで、わかやまこどもエコチャレンジについては本誌でも何度か取り上げてきましたが、今回は、おもしろ環境まつりから生まれた「新たな視点」をご紹介します。

「これは、ものスゴイです！」

感嘆の声をあげたのは、和歌山市在住の芸術家Wooky 富士原さん（※）。昨年2017年の“おもしろ環境まつり”で会場全体をプロデュースし、ユニークな発想とセンスを存分に発揮されました。その富士原さんと“わかやまこどもエコチャレンジ”の出会い、まさにこの時。夜を徹した設営の合間に、メイン会場の2階にびっしりと展示された子供たちの活動レポートを見て回りました。その数2,811枚。子供たちの無垢なチャレンジ精神、A3サイズの限られた紙面に落とし込まれた多彩な表現力、大人が思いもよらない発想などに触れ、心底『圧倒された』そうです。

「これは和歌山の宝ですよ。どんどん表に出して多くの人に見てもらいたいと思います。」



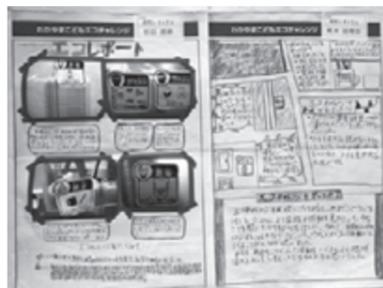
発見をカタチに

当たり前のように身の回りにあるエネルギーやごみなどに関心の目を向ける「子供たちの発見」に感動した富士原

さんは、「県内の企業にも見てもらってはでしょうか。発見を実際にカタチにできれば素敵だと思いませんか？」と、まさに芸術家らしい一言が飛び出しました。その発想に背中を押されるようにして、新たな取組が始まるようとしています。

エコチャレンジ「見える、つながる」プロジェクト

過去3年間に提出された分と今年と合わせて4年分の活動レポートの分析にチャレンジしようとしています。子供たちひとりひとりの気持ちをつなぐために、そして「エコチャレンジ」という言葉を忘れてしまわないうちに、この新しいチャレンジが実を結ぶのでしょうか？環境活動がファクターとなり、普段出会うことが少なかった者同士が互いに違った世界を体感する



機会を持つ・・・それは、発見者である子供たちはもとより、大人たちにとっても大なる学びの機会に違いありません。

環境×芸術という化学反応

「どのように見せるかについて、芸術家として僕たちも関わっていききたい。」と話す富士原さんは、2018年の“おもしろ環境まつり”も引き続き会場デザインをプロデュースされます。さて、どんな会場になるのか？また、子供たちの環境活動が今後どのような広がりを見せるのか？どちらも乞うご期待です。

（※）Wooky 富士原さん

1969年鳥取県出身。大阪芸術大学建築学科卒。画家でありながら、平面・立体・スケールなどの枠を超えた自由な発想で独創的なものを生み出すアーティストでもある。特に、流木や廃材など経年を感じるモノに新たな息吹を通わせるのが非常にうまい。氏の世界に魅了された人々からは、店舗や家屋の建築・増改築、イベントスペースのデザイン・プロデュースなど多様な依頼がひっきりなしに飛んでくる。今では県内外のみならず海外からも支持され、活躍の場は広がるばかり。多忙な日々を送っていてもいつも楽しそう・・・そんな人。

おもしろ環境まつりの「これまで」と「これから」

◆「体験型重視の」環境イベントの手応え

2017年12月2日、これまで和歌山県内で行ってきた環境イベントをさらに発展し、「手を動かしながら楽しく学ぶ」ことに重点を置いた初のイベントとなりました。会場は5つのテーマで構成され、それぞれが私達の暮らしとつながっていることを小学生を中心に実感してもらうことを目的



とし、44団体、36のブースが会場に並びました。来場した約1,500人それぞれが体験を通じ、関心を寄せることができた機会となりました。その後、おもしろ環境まつり実行委員会では、それぞれの分野の今の姿を見せられたこと、そして現状を共有できたことで、さらなるアイデアや今後の課題についても発展的に取り組んでいこうという意見が上がりました。

◆新たなアイデアや課題を盛り込んで

そして、2018年12月2日。今年第2回目となるおもしろ環境まつりは「商店街」が会場となり、より多くの方の来場を目指したイベントを予定しています。昨年の5テーマに引き続き、防災や福祉などの分野もプラス。それぞれの立場で体験できる工夫が期待されます。また、「ごみゼロ」「省電力」の工夫に、今回「プラスチック容器、包装類ゼロ」の推進が新たに加わりました。最近、世界で話題になっている「マイクロプラスチック問題」に合わせて、当イベントでも取り入れていこうという実行委員会での決定によるものです。



◆「わかやまこどもエコチャレンジ」の大々的なお披露目

ブース出展と相まって、メインの出し物のひとつとして今年もわかやまこどもエコチャレンジ（環境絵日記）の展示も予定しています。そして、ステージ上でもエコチャレンジにまつわるプログラムを企画中。子供たちの力作を通じて、おもしろくてためになるひととき。どんな内容になるかは当日のお楽しみです。

◆多くの人に関われる1日

第2回目の、おもしろ環境まつりは12月2日（日）開催予定です。みその商店街協同組合のみなさまともタイアップした企画となっており、昨年以上の来場を想定し準備を重ねております。運営サポーターも随時募集しています。



おもしろ環境まつり2018

日時：2018年12月2日（日） 午前10時～午後3時まで
会場：みその商店街アーケード（和歌山市美園町5丁目）

※詳しくは8ページ・インフォメーションへ

「わかやま子供エコチャレンジ」とは

・Slogan

家族で楽しく、エコライフ

・What?

子供が家庭でエコ活動の率先者として家族と一緒に楽しみながら取り組む体験学習。

「資源の有効な利用」（小学4年社会科）や「自分の生活と身近な環境とのかわりに気付き、物の使い方などを工夫」（小学5年・6年家庭科）を広く紹介することにより環境意識の向上につなげるもの。対象は、県内全小学校の4年、5年、6年生（約2万5千人）。今年で4年目。

・How?

夏休みの期間中、家族と一緒に「節電」「節水」「ごみ減量」等のエコ活動に取り組んだ結果を活動レポート（A3用紙大）にまとめて応募する。

・Topic

平成30年度「わかやま子供エコチャレンジ」の活動レポートは、12月2日（日）みその商店街で開催する“おもしろ環境まつり2018”にて展示します。今を生きる大人たちにこそ見ていただきたい、芸術家をも感心させた活動レポートをぜひご覧ください。展示にどのような工夫がなされるのかも、どうぞお楽しみに。

※過去の活動内容やレポートについては、和歌山県ホームページにてご覧いただけます。

気候変動・適応

地球温暖化対策としての「緩和」と「適応」について

最近、地球温暖化対策において「緩和」と「適応」という言葉を聞くことがあります。

「緩和」とは、省エネ、節水、ゴミの減量などのエコ活動により温室効果ガスの排出抑制を行うことで「なんや、地球温暖化防止活動やん。」と頭に浮かぶことと思います。

そう、今までみんなで地球温暖化防止のために取り組んできたエコ活動の多くは、地球温暖化による気候変動の影響を「緩和」する取組なんです。

では、一方の「適応」とは何でしょう。

これは、すでに起こりつつある気候変動の影響への「適応」という意味です。

最近「観測史上最高」の豪雨や猛暑などの異常気象、農作物の生育不良など農業被害、熱中症や蚊が媒介する新たな伝染病などの健康被害など身近なところでも気候変動による影響は確実に現れています。

夏は暑いので半袖Tシャツを着る。冬は寒いので厚着をする。といった、私たちの当たり前が、最近では通用しなくなってきてしまうぐらい事態は深刻になっています。

そして、これらの影響からの被害をどのようにして回避したり軽減していくかを考え、実行していくのが「適応」です。

これまでの地球温暖化対策である「緩和」は、より一層積極的に行っていく必要がありますが、これからは併せて「適応」についても考えていく必要があります。

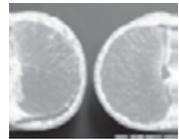
気候変動による影響と「適応」の事例

● 「農作物」

気温の上昇による、米の白未熟粒、リンゴの日焼け、ミカンの浮皮、トマトの裂果などの品質低下

→ 高温に強い品種に変える。作付け時期を変える。日除けで強い日差しから守る。

みかんの浮皮症▶



● 「自然災害」

過去の観測を上回る荒天が多発

→ 天気予報や防災アプリ、ハザードマップ（洪水被害予想地図）、避難経路を確認。

「和歌山県防災ナビ」アプリ▶

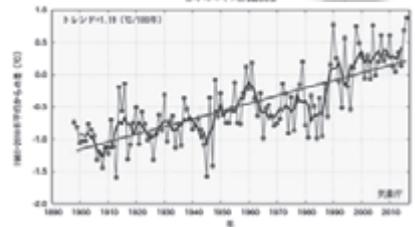


● 「健康」

熱中症で搬送される人の数が増加（日本の年平均気温は、100年あたり1.19℃の割合で上昇）

→ こまめな水分補給、エアコンの設定温度を適度に保つことによって熱中症を予防。

気温の上昇
日本の年平均気温



気候変動適応法～国を挙げての取組

「気候変動適応法」が制定（平成30年6月13日公布、平成30年12月1日施行）され、国、地方公共団体、事業者、国民が連携・協力して適応策を推進するための法的な仕組みが整備されました。

【主な内容】・国に「適応計画」の策定を義務づけ（県、市町村は努力義務）

・「気候変動適応情報プラットフォーム」の整備（国立環境研究所）

・広域協議会を組織し、国と地方公共団体等が連携して地域における適応策を推進

地球温暖化対策の緩和策と適応策は車の両輪の関係です。今後は、「地球温暖化対策推進法」と「気候変動適応法」の二つを礎に、地球温暖化対策を推進していくこととなります。

詳しくは、[気候変動適応情報プラットフォーム](#) [検索](#)

松っちゃんの

推進員さん^{ひよっこ}の訪問記²⁵



和歌山市 河山 祐実 さん

今回のひよっこ訪問記は今年の4月に委嘱を受けたばかりの新人推進員、和歌山市にお住まいの河山祐実さん（第13期）です。河山さんは大阪府泉佐野市生まれで泉佐野育ち。中学、高校は和歌山市に通学しましたが地元にて就職、事務職やパソコンインストラクター等をしていました。そして2年半前にわかやま環境ネットワークも同居するNPO和歌山有機認証協会に望まれて就職、有機認証の業務等を担当しています。

推進員への応募動機は故重栖前代表に「そろそろ、河山さんも推進員になっては？」と勧められたからとのこと。推進員講座では温暖化が大変なところまで来ていることを実感、しかし主な原因がCO₂であることには懐疑的で、CO₂削減が温暖化防止になることを疑う人も多いのでは？と感じたと言います。またぶらくり丁での啓発活動や「おもしろ環境まつり」のイベントではボランティアの人たちに共感、自分も早く近づきたいと思ったとのこと。

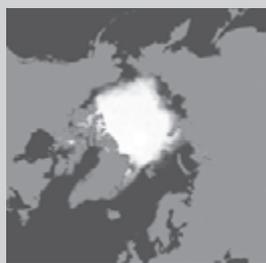
推進員の活動としては、まだ日が浅いのでイベント等には参加できていないと言いますが、生活面では約8キロの通勤を自転車（夏以外）、またはバスを利用。そして自宅のあるマンションでは自分ひとりの時はエレベーターを利用せずに5階まで階段を上っていると言います。また炊飯器の保温はしない、ポットも使用しない、マイバッグの利用、スーパーやコンビニでは割り箸をもらわない、夏場はシャワーのみ等を実践しています。

河山さんは、今年の夏は35度以上の日が多かったことや観測史上初めての台風の逆走、甚大な被害の集中豪雨などを危惧、人々がこの状態に慣れてしまうことが怖いと言います。そして今夏の状況が、みんなの意識を変えるターニングポイントの年になってほしいと考えています。

最近、ホッキョクグマの餓死寸前の写真を見て悲しくなった（北極の氷が溶けて餌場が減少）。人間の本位で思い通りにすると自然を破壊してしまうので、自然保護や循環型社会を作っていきたいと話します。地球を守るために、未来の人のために、そしてありのままの自然がいいと・・・。

今夏は地球規模で、温暖化が表舞台で暴れ始めました。河山さんの言うように、みんなの意識が変わるターニングポイントの年になってほしいと切に願います。

北極海の海水分布



1980年代の9月最小時期の平均的分布
(米国衛星搭載マイクロ波センサの解析結果)



2012年9月16日

「しずく」/AMSR2(アムサー・ツー) [検証中]
(観測史上最小分布)

※出典：AXA | 宇宙航空研究開発機構

なるほどザ・ワード

STOP温暖化・焦点の言葉 26

* 地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します

TCFDって？

今年の夏は、死者まで出る異常な猛暑となりました。繰り返される豪雨により、多数の死者が出る災害も起こりました。この原因として疑われるのは、まさしく地球温暖化に伴う気候変動です。にも関わらず、死者が出た根本原因と地球温暖化をつなげて考えられる日本人は非常に少なく、マスコミでも関連づけた話としては報道されることはほとんどありません。

ところが、海外に目をやると、「自身の利益のためには気候変動は防止しなければならない」と考える企業、投資家が増えてきました。これまでのような「ためにも」つまり「も」ではなく、「は」とギアが何ステップも上がりました。気候変動が経済や経営に及ぼす悪影響が無視できない状況になったことは、世界の常識になってきたのです。世界的なエネルギー企業や、皆さんも知っている有名なハンバーガーチェーンまでもが同意見に達するようになってきました。

こうした中、世界の金融機関は動きました。国際金融に関する措置、規制、監督などの役割を担う金融安定理事会は、

2017年になると世界の民間企業に対し「気候関連の財務情報を開示せよ」と言い出しました。これは「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」と言われる世界の動きです。経営上でのリスクとチャンスの双方を開示することで、世界の金融の流れを持続可能な方向へとシフトさせようという狙いです。ここでいうリスクには、例えば、地球温暖化防止への社会関心の高まりによって自動車メーカーではガソリン車が売れなくなることや、豪雨で工場が被災することでの損失などまで含まれます。逆に、電気自動車での事業展開や、省エネによる経費削減などはチャンスになります。

この流れは人々の考え方を考えるきっかけとなり、地球温暖化防止は自分達の暮らしの安全性を高めるばかりか、家計を守るポイントにもなるという視点から、個人生活の基本姿勢にまで影響し始めています。ただ、これは外国の話です。気候変動COPにおいて「化石賞」の受賞常連国となっている日本では、今年の8月になって、ようやくTCFDの説明会が始まりました。そのような、日本と世界の動きすら知らずに個人生活の中でCO₂の排出量を増やし続けている日本人の巻き返しに期待したいものです。

イベント情報

◆里のハーベスト祭

2018年10月7日(日) 9:00~16:00
 場所：橋本市・柱本 芋谷(県認定美しい棚田)
 主催：はしもと里山学校
 内容：稲刈り体験、生き物観察会、
 里山ウォーキング他

◆くるまジャンボリー

2018年10月21日(日) 10:00~15:00
 場所：和歌山市・近畿運輸局和歌山運輸支局
 主催：和歌山県自動車整備振興会和歌山支部
 出展：和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

◆有田川町どんどんまつり

2018年10月20日(土)~21日(日)
 場所：有田川町・花の里河川公園
 主催：有田川町どんどんまつり実行委員会
 出展：エコネット紀中

◆第27回 橋本市ふるさとよいとこ探し
 ナチュラルブレイク

2018年10月28日(日) 10:00~15:00
 場所：橋本市・杉村公園 頂上広場
 主催：橋本市ナチュラルブレイク実行委員会
 出展：伊都・橋本地球温暖化対策協議会

◆第30回 かつらぎ町産業まつり

2018年11月17日(土)~18日(日)
 場所：かつらぎ町・かつらぎ公園グランド
 主催：かつらぎ町産業まつり実行委員会
 出展：伊都・橋本地球温暖化対策協議会

◆ふれあい人権フェスタ

2018年11月24日(土) 10:00~16:00
 場所：和歌山市・和歌山ビッグホール
 主催：和歌山県、(公財)和歌山県人権啓発センター、
 和歌山県人権啓発活動ネットワーク協議会
 出展：和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

◆すこやか橋本 まなびの日

2018年11月25日(日) 9:30~15:00
 場所：橋本市・和歌山県立橋本体育館
 主催：橋本市教育委員会
 出展：伊都・橋本地球温暖化対策協議会

◆おもしろ環境まつり

2018年12月2日(日) 10:00~15:00
 場所：和歌山市・みその商店街アーケード内
 主催：おもしろ環境まつり実行委員会

◆わかやまCOOLCHOICEキャンペーン 2018年12月31日 応募しめきり
 ※詳細は<https://wenet.info/cc/>

あなたの活動をサポート わかやま推進員サイト イベント情報も随時更新

県センター通信

夏からの連続的な災害が続きました。大阪北部地震、西日本での豪雨災害、そして台風21号の到来に続き、北海道地震と各地での多くの被害に対し、心よりお見舞い申し上げます。これ以上の被害が広がらないことを本当に祈るばかりです。当センターは、台風21号通過の際、看板が飛んでしまいましたが、それ以外の大きな被害には至らず通常運営を行えています。引き続き、おもしろ環境まつりをはじめ、和歌山県がCOOLCHOICE賛同者率全国1位を目指すキャンペーンなど、地球温暖化防止活動を前にすすめていけるようスタッフ一同、全力活動しています。推進員のみなさまの益々の活動が次につながっていきます。ぜひ、一緒に汗をかいていきましょう！

